

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から国語、算数、理科ともに全国及び東京都の平均正答率を上回っている。成果がある一方で、どの教科でも複数の情報を関連付けながら事柄の中心を捉え、適切な表現方法を用いて筋道立てて説明することに課題が見られた。また、解決過程や結果を振り返って意味付けたり、概念を形成したりする場面で、複数の条件に合わせて思考・判断したことを整理し直してまとめて記述することに課題が見られた。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○「板橋区授業スタンダード」に基づいた学習の実施に加え、学びの成果を振り返る機会を充実させること。
 ○ICT機器の利点を生かしながら、児童の思考をつなげて学びを深める展開の充実と表現力向上を図ること。
 ○学習のねらいに応じて、適切な一人一台端末の活用を増やして学びの質を深めること。
 ○9年間の学びの系統性・体系性を意識した学習を実践し、小中一貫教育の取組を躍進していくこと。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって積極的に粘り強く問題解決に取り組むとともに、自己の学習で探究(追究)し、振り返って次につなげる「主体的な学び」を実現する。
 ○身に付けた知識や技能を定着させるとともに、児童同士の学び合い、教職員や外部の方・地域の人とのコミュニケーションツールなどを活用して交流をする。それによって思考を広げて深める「対話的な学び」を一人一台端末も効果的に活用しながら進める。
 ○「読み解く力」の育成をINPUT・THINK・OUTPUTの学習過程を展開するとともに、自らが主体となって学び進めることができる児童の育成をめざした自己調整学習(すららドリルの活用など)に取り組む。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○問題解決に必要な情報を比較、関連付けながら相手に説明する活動を増やし、表現する機会の充実を図る。また、めあてに対して振り返る時間を適時設定する。 ○自分に合った学習内容や方法などを選択する機会を設けて問題を解決する学習展開をつくる。	○文章や図表などを読む活動、複数の条件を満たしながら、考えたことを整理し直してまとめて記述する機会を習慣化する。また、児童の思考をつなぎながら論理的に課題を解決する学習を展開する。	○各教科で身に付けた資質・能力を活用しながら課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の探究のプロセスを繰り返し、問いを深めていく学習過程を組織していく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○OSDGsの17の目標を観点に9年間つながりを見据えながら、総合的な学習の時間の計画・実施をする。また、実施後には計画を振り返って評価・分析し、それを基に総合的な学習の時間の学習計画の修正・追加を行う。 ○基礎的読解力のうち、特に「推論」(既存の知識と新しく得られた知識から、論理的に判断する。また、既習事項や既有体験を基に考えたり、説明したりする。)に関わる資質・能力の9年間の高まりを見据え、その手だてを図った学習の実践を充実する。	○理科や社会、生活などの各教科で、また総合的な学習の時間でも、児童の身近にある豊かな自然環境「光が丘公園」を教材化をすることにより、自分の住む街への愛着、すなわち郷土愛も育む。 ○地域や外部の専門家の方々の協力を得たり、学びのエリアを生かした他校とのオンライン交流を図ったりして、児童が思考を広げ深めていけるようにする。	○各教科、道徳、特別活動並びに総合的な学習の時間で、学習ツールとして一人一台端末を効果的に活用することを基本とする。また、一人一台端末の自分に合った学習方法を選択できるよさ、即時的に共有できるよさを生かした学習活動を構成する。 ○宿題(学習の課題)だけでなく、児童の学習の理解度・達成度に合わせて、一人一台端末を用いたドリル学習(すららドリル)などを地域人材を活用した放課後教室や家庭で自学として取り組ませようとする。